

岐阜薬科大 **MR I 使い高精度**

**緑内障進行予測に新手法**

緑内障を発症したサルの視神経を磁気共鳴画像装置(MRI)で観察し、進行を高精度で予測する新手法を、岐阜薬科大(岐阜市)と理化学研究所分子イメージング科学研究センター(神戸市)の研究チームが開発した。

人体に應用できれば、状態には個体差があり、早期診断と新たな治療、眼圧だけでは症状悪化法開発が可能になる。の速さが予測できなかつた。米国医学専門誌の電子版に掲載された。

研究チームは、カニ緑内障は日本の失明原因の一位。眼圧が適正以上に強くなること、神経線維を画像化できる特殊なMRIが原因で、自覚症状とを、緑内障のサルでは少しずつ視野が欠けてくる。しかし症、視神経線維の欠損

サルで実験 **人体応用に期待**

と眼圧の高さに相関関係があることが判明。予測通りの速さで五匹の症状が悪化した。

人体に應用できれば、視野が欠ける前に病気の発見が可能になる。治療の効果が予測が容易になり、新薬や治療法の開発が期待できるといふ。

研究の中心となった岐阜薬科大の嶋沢雅光准教授(西)は「新しい治療の道を開く画期的な研究だと思つ。早期の臨床應用を目指していきたい」と話した。